



かながわ「いのちの授業」 ハンドブック



神奈川県

神奈川県教育委員会

平成 30 年 12 月改訂

『いのちの授業』ハンドブックについて

趣旨

神奈川県すべての学校では、道徳の時間をはじめとして、あらゆる教育活動を通して子どもたちに『いのち』のかけがえのなさや、夢や希望をもって生きること、人への思いやり、互いに支え合って生きることの大切さなどを実感してもらう様々な取組を行っています。

県教育委員会では、かながわ教育ビジョンが提唱する「心ふれあう しなやかな 人づくり」の理念に基づき、各学校のこうした実践に光をあてた、『いのちの授業』の取組を推進してきました。

子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化する現在、いじめや自殺等が全国的に大きな課題となっている中、『いのちの授業』の必要性・重要性はますます高まっています。

さらに本県では、平成28年7月26日、障害者支援施設である県立「津久井やまゆり園」において大変痛ましい事件が発生したことを受け、このような事件が二度と繰り返されないよう、ともに生きる社会の実現をめざし、『ともに生きる社会かながわ憲章』を定めました。

ともに生きる社会かながわ憲章

- 一 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 一 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 一 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 一 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

平成28年10月14日

神奈川県

将来の、ともに生きる社会の担い手となる子どもたちに「あたたかい心」や「すべての人のいのちを大切に作る心」を育むためには、『いのちの授業』の更なる推進に加え、家庭や地域において対話や体験を通し、子どもたち一人ひとりに『いのち』について考えてもらう経験が必要です。

そこで県教育委員会では、各学校における『いのちの授業』のより一層の充実を図るとともに、家庭や地域でも『いのち』について子どもたちと考える機会が広がり、そして「百万通りの『いのちの授業』」が実践されることを願い、このハンドブックを作成しました。

〔参考〕県教委ホームページ「いのちの授業」<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f417796/>

学校・保護者・地域の皆様へ

こんなハンドブックに
なってほしいという
思いをこめて

1 思わず 手に取りたくなる『いのちの授業』ハンドブックに

表紙は、『いのち』の原点である「新生児」です。

「あなたがそこに居るだけで価値がある」のメッセージを、学校のみならず、保護者・地域の全ての大人と一緒に子どもに届けたいと願う「ハンドブック」であることを表現しました。

2 思わず 読みたくなる『いのちの授業』ハンドブックに

子どもから大人まで、誰もが読みやすい教材を収集しました。

子どもの様子に合わせて、いつでも何度でも『いのち』にふれるきっかけとなるよう掲載しました。

3 思わず 考えたくなる『いのちの授業』ハンドブックに

『いのち』の捉えは「偶然性・有限性・連続性」*1 展開は「気づく・考える・行動する」と構成し、子どもにかかわる全ての大人が、『いのち』について考えを深める道筋のヒントを提示しました。

(*1 文部科学省 私たちの道徳 中学校 活用のための指導資料より)

4 思わず 広めたくなる『いのちの授業』ハンドブックに

展開の「行動する」や「関連する場面や資料」では、机上で終わらない学びの広がり

リンク集等は「いのちの授業」が学校だけでなく家庭や地域への広がりをめざして掲載しています。

目次

「いのち」とは

- P1～** 1 『いのち』の捉え
2 『いのち』を大切にすること（めざす子どもの姿）
3 『いのち』を大切に子どもを育むために（自己肯定感を高める必要性）
P2～ 4 「いのちの授業」の推進にあたって
P3～ めざす子どもの姿

「いのちの授業」実践例

P4～ 活用方法

*特別支援学校では、児童・生徒の障がいの状況により、ご活用ください。

発達段階	取り上げた教材	本ハンドブックにおける 発達の段階に応じた『いのち』のテーマ	学習指導要領等との関連
幼稚園	P5～ 『いのち』とのであい 身近な自然や動植物との出会い（直接体験）	『いのち』ある ものとの出会い	○動植物にふれ、『いのち』への温かな感情が芽生える。 ○『いのち』に感動し、大切にしようとする心が育つ。 「身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気づき、いたわったり、大切にしたりする」 幼稚園教育要領 第2章 環境 2（5）
小学校低学年	P7～ 「まりちゃんとあさがお」 植物の栽培を通して、『いのち』のつながりに気づく（読み物）	『いのち』ある ことの喜び	○動植物の世話を通して、『いのち』のすばらしさを知る。 ○『いのち』あるものへの親しみや慈しみの心が育つ。 「生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること」 小学校学習指導要領 特別の教科 道徳 第2 D【生命の尊さ】
小学校中学年	P9～ 「命」 限りある命を精一杯生きる（詩） P11～ 「かわいそう」「しかたがない」「あたりまえ」 人が生きていくことと、他の生き物の命とのつながりについて考える（ワークシート）	『いのち』の 尊さ	○『いのち』の不思議さ、『いのち』の偶然性や尊さに気づく。 ○かけがえのない『いのち』を大切に生きてしようとする心をもつ。 「生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること」 小学校学習指導要領 特別の教科 道徳 第2 D【生命の尊さ】
小学校高学年	P13～ 「命てんでんこ」 東日本大震災での体験談（読み物） P15～ 「その思いを受けついで」 祖父の人生の最後に寄り添う中で思ったこと（読み物）	限りある 『いのち』	○人々の生き様やふれあいを通して、『いのち』の有限性と『いのち』の連続性について考える。 ○自他の『いのち』を大切に、力強く生きようとする心をもつ。 「生命が多くの人々のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること」 小学校学習指導要領 特別の教科 道徳 第2 D【生命の尊さ】
中学校	P19～ 「耳澄まし静かな野球」 盲学校で野球に取り組む生徒たちを取り上げた新聞記事（読み物） P21～ 「知命」 生きていく上での人と人とのつながりについて考える（詩） P23～ 「一冊のノート」 認知症が進行する祖母との家族のふれあい（読み物）	『いのち』の つながり 支え合いと感謝	○『いのち』の偶然性、有限性、連続性について考えを深める。 ○互いに支え合って生き、生かされていることに感謝の念をもち、『いのち』を輝かせて生きようとする心をもつ。 「生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること」 中学校学習指導要領 特別の教科 道徳 第2 D【生命の尊さ】
高等学校	P25～ 「成田真由美さんと競泳」 パラリンピックメダリストの思い（読み物） P27～ 「ともに生きる社会かながわ憲章」 理念について考える（かながわ憲章）	ともに生きる	○「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念をもとに自助・共助の視点をもつ。 ○『いのち』に畏敬の念をもち、豊かな心で他者とともによりよく生きていこうとする。 「人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし」ていくこと 高等学校学習指導要領 総則 第1款 2（2）

リンク集・参考文献等

P29～ 関連するホームページやQRコード等

『いのち』とは

・本ハンドブックにおける『いのち』の捉えを示しました。子どもにかかわる全ての大人が、『いのち』に対する認識を深めることが大切です。

1 『いのち』の捉え

「生命」といえば、生物的・身体的生命をあらわすことが一般的ですが、「生命」には、それ以外にも様々な捉え方があります。

小・中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編では「生命は、連続性や有限性を有する、**生物的・身体的生命**に限ることではなく、その関係性や精神性においての、**社会的・文化的生命**、さらには人間の力を超えた**畏敬されるべき生命**として捉えている」と述べられています。

このハンドブックでは、『いのち』の多面性を踏まえた上で、次の3つの観点からのアプローチを中心とした授業を想定し、教材を選定しました。

※下線部は中学校学習指導要領解説

「生命」を捉える三つの観点

- 偶然性…自分が今ここにいることの神秘性
⇒自己の存在についてプラス思考で捉えるようにしたい。
- 有限性…一つの生命には終わりがあるもの 一度失っては取り返しがつかないもの
⇒生きていることを大切にする心情を引き出し、かけがえのない貴重な一日を精一杯生きていこうとする思いを養いたい。
- 連続性…過去から現在へ、そして未来へと連綿と受け継がれていく生命
⇒家族との結びつきを再認識し、自分も脈々と続くであろう生命の環の一つであることに気づかせたい。

(文部科学省 私たちの道徳 中学校 活用のための指導資料より)

2 『いのち』を大切にすること <めざす子どもの姿>

小・中学校学習指導要領解説特別の教科道徳編において、『いのち』を大切にすること(尊ぶ)とは、「かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心のあらわれ」と述べられています。

本ハンドブックでは、めざす子どもの姿を、「自分の『いのち』を大切にすること、他者の『いのち』を大切にすること」と捉え、『いのち』を大切にすることが、子どもの言動や姿に現れていくことが重要だと考えました。そこで、子どもが『いのち』について学ぶプロセスを、「気づく」「考える」「行動する」という視点で捉えました。

- 「気づく」…無意識だった『いのち』を意識する
・自分と他者とのかかわりの大切さに気づく 等
- 「考える」…他者や教材との対話を通じて『いのち』の捉えを広げたり、深めたりする
・教材でふれた『いのち』を自分の『いのち』や人生と重ねる
・自分の生き方について主体的に考える 等
- 「行動する」…自他の『いのち』を大切にすること
・他者に対して思いやりのある行動をとろうとする
・一日一日を大切に過ごす 等

3 『いのち』を大切に子どもを育てるために <自己肯定感を高める必要性>

「かながわ教育ビジョン」の教育目標では、自己肯定感と「思いやる力」「たくましく生きる力」「社会とかかわる力」を育むことが示されています。

自己肯定感とは・・・

自分が価値ある人間であり、自分の存在を大切に思う気持ち(自己充実感・自己存在感・他者からの受容感)のことです。ありのままの自分や、自分の存在そのものを認められることによって、生まれます。 <<「自己肯定感を高めるための支援プログラム」(平成29年5月 神奈川県教育委員会P.15より)>>

自分の存在の大切さを認識している子どもは、他人の大切さも認識できるようになっていきます。一方、自己肯定感の低い子どもは、自分だけでなく他人の存在の大切さを認識することが難しく、自他を傷つけてしまうこともあります。

子どもの自己肯定感は、自分が一人の人間として尊重される経験や、愛情や友情、温かい心にふれることで高められます。子どもにかかわる全ての大人が、子ども一人ひとりに寄り添い、その行動や発言を見守り、ありのままの存在を肯定的に認め、温かい言葉を掛けていくことが大切です。

それは、かながわ教育ビジョンが示す「思いやる力」「たくましく生きる力」「社会とかかわる力」を、子どもの姿を通して、大人も一緒になって学んでいくことにつながります。

本ハンドブックでは、子どもが「いのちの授業」から単に知識を得るだけでなく、自分と教材や身近な人の人生等と照らし合わせ、**自他の存在＝『いのち』の大切さを実感**できることをめざしています。

4 「いのちの授業」の推進にあたって【参照：P3 めざす子どもの姿】

各学校で継続して「いのちの授業」を実践していく際には、次のような点に留意することが大事です。

♥ 教育課程全体を見通した計画を立案しましょう

先に述べた『いのち』の多面性に鑑み、「いのちの授業」は、**人権教育の理念**を基に、**道徳教育**を中心として、福祉教育やキャリア教育などとも密接に関連させて、教育課程全体を見通した計画を立てることが大切です。さらに、学校全体で**支援教育**の理念に基づき**インクルーシブ教育**を推進していくことで、「いのちの授業」に、より大きな効果をもたらします。

♥ これまでの取組の積み重ねを重視しましょう

「いのちの授業」は、新たな教育内容や指導方法のみを求めるものではありません。既に幼稚園や学校で積み重ねてきた実践について、このハンドブックに記載したような視点で見直し、整理し、少しの工夫を加えることで生きた授業になっていきます。

♥ 発達の段階や個別の状況を踏まえた教材を選定しましょう

『いのち』は、私たちにかけがえのない喜びを与えてくれるものであるとともに、時に、深い悲しみを伴うものでもあります。「いのちの授業」で扱う教材は、子どもたちの発達の段階を十分に考慮して選びます。また、子どもたちのこれまでの経験や現在の置かれている家庭の状況等は様々であるため、個別の状況や人権的な配慮も忘れずに行います。

♥ 繰り返し伝えることを大事にしましょう

『いのち』の偶然性や有限性、連続性の観点から様々な場面で、学年の発達の段階に応じて『いのち』について繰り返し伝えることが重要です。同じテーマや教材を繰り返し扱うことで、感じ方や考え方が広がり、深まっていきます。

♥ 多様な指導方法・場面を考えましょう

本ハンドブックでは、読み物教材を多く取り上げていますが、体験的な活動や視聴覚教材の活用、地域の方々からのお話など、教材は様々で、多様な指導方法が考えられます。また『いのち』にふれ、考える場面は、授業の時間だけではなく、日常の学校生活や家庭・地域での日々の生活の中にもその場面は多くあります。大人が、子どもの姿から工夫したかわり方を考えていきます。

♥ 家庭・地域・関係諸機関と連携・協働しましょう

『いのち』の大切さは、学校のみならず、様々な場面で、全ての大人から子どもに伝えていくものです。その際には、知識やルールとして教え込むのではなく、人と人のかかわりの中で、子どもが対話や体験を通して『いのち』について気づいたり、考えたりする機会をもつようにします。まわりの大人たちが子どもにかかわり合っていく姿は、『いのち』のつながりそのものです。

♥ 子どもと一緒に、大人も振り返りましょう

例えば子どもの意識調査結果を、「いのちの授業」の取組と関連付けて学校評価に盛り込み、保護者や地域とも共有して、教育課程等の改善を図るなど、子どもの声から取組を見直すことが大事です。

～ めざす子どもの姿 ～

自分の『いのち』を大切にする 他者の『いのち』を大切にする

行動する

考える

気づく

○自他の『いのち』を大切にする行動をとる

- ・他者に対して思いやりのある行動をとろうとする
- ・一日一日を大切に過ごす 等

○他者や教材との対話を通じて『いのち』の捉えを広げたり、深めたりする

- ・教材でふれた『いのち』を自分の『いのち』や人生と重ねる
- ・自分の生き方について主体的に考える 等

○無意識だった『いのち』を意識する

- ・自分と他者とのかかわりの大切さに気づく 等

教育課程全体を見通した「いのちの授業」の計画と推進

学 校

学校全体での組織的・計画的な取組

- ・これまでの取組の積み重ねを重視
- ・発達の段階や個別の状況を踏まえた教材の選定
- ・繰り返し伝える
- ・多様な指導方法・場面を活用
- ・振り返りや見直し

家 庭



地 域



関係諸機関



幅広い視点

健康教育

国際理解教育

食育

安全教育

防災教育

『生命』を捉える3つの観点

偶然性

有限性

連続性

道 徳 教 育

主権者教育

環境教育

キャリア教育

福祉教育

情報教育

か な が わ の 支 援 教 育

一人ひとりの教育的ニーズに応え、共に育ちあう

「かながわ教育ビジョン」教育目標

たくましく
生きる力

思いやる力

社会と
かかわる力

自己肯定感

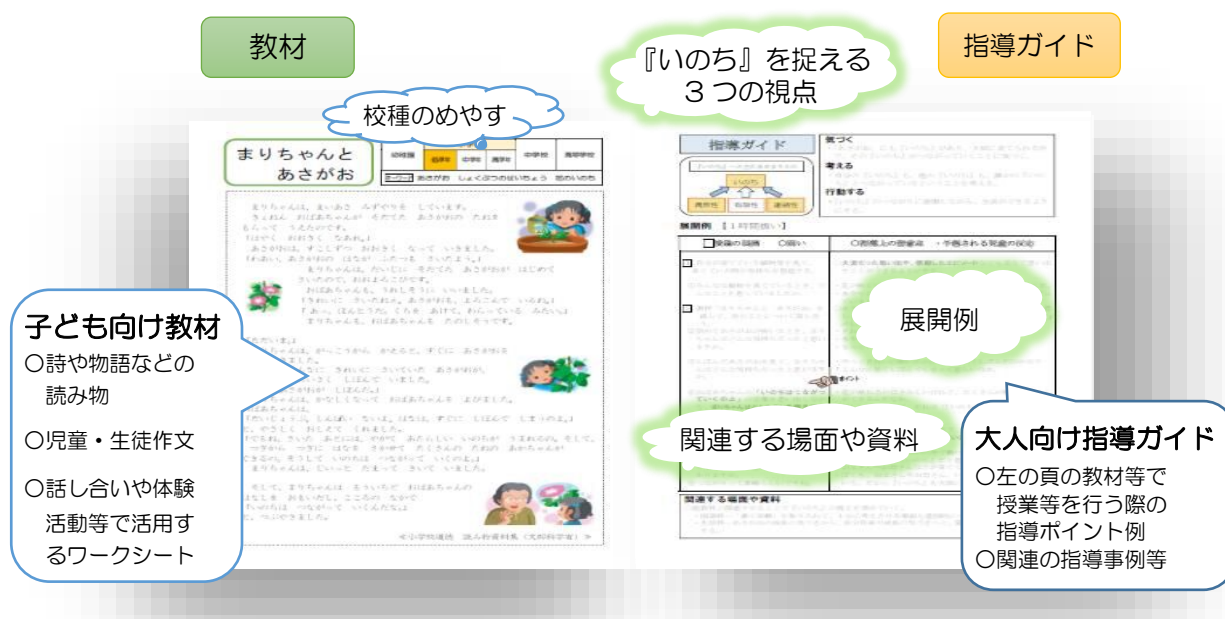
「心ふれあう しなやかな 人づくり」

「いのちの授業」実践例の活用について

・「いのちの授業」実践例に掲載されている子ども向け教材・大人向け指導ガイドは、多様な教材や授業展開の一例です。本ハンドブックでの視点を参考に、各校での多様な教材の活用や創意工夫を加えた授業等へ広がっていくことを願っています。

・「いのちの授業」実践例では、子どもの発達の段階を考慮し、指導の場面を幼稚園・小学校・中学校・高等学校の段階的に整理してあります。特別支援学校はもとより、子どもの実態に応じて、意図的に他校種の教材を扱うことが効果的な場合もあります。目の前の子どもの校種以外の学校種の事例もぜひ、ご活用ください。

「いのちの授業」実践例 活用方法



・指導ガイドでは、『いのち』について学ぶプロセスを、教材ごとに示しました。目の前の子どもの様子によって、工夫した活用をしてください。

気づく は、抽象的な概念に気づく視点としています。

考える は、自分の『いのち』や生き方に関連して考える視点としています。

行動する は、具体的な行動や自分の生き方としてあらわれる視点としています。

・展開例は、左側 □印で授業の展開を、右側の ○印で活動上/指導上の留意点を示しています。その中の、予想される児童・生徒の反応は、期待する子どもの発言として記載しています。

・ **ポイント** 学校のみならず、保護者・地域の方々など、幅広く活用していただくために、教材のポイントとなる活動内容に印をつけました。

・関連する場面や資料は、目の前の子どもの様子をみながら、身近な事例へと広がることを願って掲載しています。継続する学びとなるよう、工夫した活用をお願いします。

「いのちの授業」実践例

『いのち』 とのであい

幼稚園	小学校			中学校	高等学校
	低学年	中学年	高学年		
キーワード	カイコ	いきもの	しいく	かんさつ	たいけん



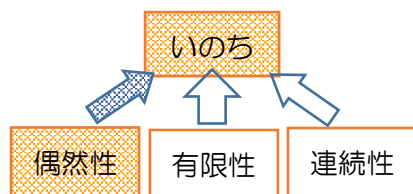
※「『いのち』あるものに直接かわり、育てていくことで、興味・関心、愛着が生まれ、生き物を大切に思う気持ちを育んでいく」ことをねらいとしています。

※生き物に親しみをもって接し、いのちの鼓動を感じながら、やさしく扱っていくようにします。

※カイコと最後までどのようにかわっていくか等、見通しをもって育てていくことが必要です。

指導ガイド

『いのち』へのアプローチ



気づく

・『いのち』あるものとの出会いを通して、不思議さや面白さに気づく。

考える

・『いのち』あるものを、見たりふれたりすることで、大切にしたいという気持ちが生まれる。

行動する

・生き物のことを考えた飼い方や、かかわり方をしようとする。

活動例

□ 活動内容・予想される園児のつぶやき	○ 活動上の留意点
園児のつぶやきから活動の見通しをもち、発達の段階に応じた支援をしていく。	
1 たまごとの出会い 「なんだろう」「花のたねかな」 「虫のウンチじゃない」「どんなにおいがするかな」 「ちっちゃいね」 2 たまごからかえった姿との出会い 「黒いちっちゃいのがウヨウヨしている」 「なんだろう」「花の種じゃなかったね」 「気持ち悪い」「調べてみよう」 3 カイコの成長に興味・関心をもち、世話をしようとする姿 「何を食べるのだろう」「桑の葉だって」 「桑の葉ってどれだろう」「探しに行こう」 4 桑の葉を取ってくる姿 「おいしそうな葉っぱはどれかな」 「カイコの色が変わってきた」 「どんどん大きくなるね」 「あっ食べた」「食べている音が聞こえるよ」 「かわいいね」「触ってみたい」 5 触ってみたいという気持ち 「つめたいね」「くすぐったい」「かわいいね」 「新幹線みたいな顔をしているよ」 「背中のところがドクドク動いているよ」 「なんだろう」	○園児が動植物に興味・関心を示し、主体的にかかわれるよう、「なんだろう」「おもしろそう」などの疑問や喜びの感情が園児に生まれるような出会い方や環境を工夫する。 ○園児の発達の特性等から考えて、短期間で成長の変化がわかるようなものが望ましい。変化していくことへの驚きにより、親しみやすくなる。 ○初めての出会いの中で、肯定的な感情だけでなく、否定的な感情もしっかり受け入れていくことが大切である。友だちや教師がかわいがる姿や世話をする姿に接することを通して、親しみやいたわりの気持ちを育むようにする。 ○園児の“知りたい”という気持ちから進んで調べ行動に移せるよう図鑑等を用意しておく。 ○保護者にも声をかけ、飼育の協力を得ることで、家庭でも親子で成長を楽しみ、『いのち』を大切に育てていくことができる。 ○園児の大切に育てたいという気持ちを受け止めるとともに、大切に育てる意味を一緒に考えていくようにする。 ○自分で世話をすることや直接ふれることで、さらに愛着がわき、大切にしたい気持ちが生まれるようにする。 ○クラス便り等で飼育活動の様子を具体的に伝え、家庭でも『いのち』の大切さについて話し合う場を作ってもらおうよう投げかけていく。

関連する場面や資料

- 動物との出会い
 - ・ウサギ、モルモット等にふれる→温かさや柔らかさを感じる。
 - ・昆虫類を飼育する→かわいさや不思議さを感じる。
- 植物を育てる・花や野菜を育てる→成長の変化の不思議さや面白さ、美しさを感じる。
 - ・動物や植物とのかかわりを通して愛着がわき、大切に思う気持ちが育つ。
 - ・動物の死や植物が枯れてしまう等の体験で悲しみ、寂しさを経験する。
 - ・『いのち』は一つしかないことや大切さを感じるきっかけとする。

まりちゃんと あさがお

幼稚園	小学校			中学校	高等学校
	低学年	中学年	高学年		
キーワード あさがお しょくぶつのせいちょう 花のいのち					

まりちゃんは、まいあさ みずやりを しています。
きょねん おばあちゃんが そだてた あさがおの たねを
もらって うえたのです。

「はやく おおきく なあれ。」

あさがおは、すこしずつ おおきく なって いきました。

「わあい、あさがおの はなが ふたつも さいたよう。」

まりちゃんは、だいに そだてた あさがおが はじめて
さいたので、およろこびです。



おばあちゃんも、うれしそうに いいました。

「きれいに さいたねえ。あさがおも、よろこんで いるね。」

「あっ、ほんとうだ。くちを あけて、わらっている みたい。」

まりちゃんも、おばあちゃんも たのしそうです。



「ただいま。」

まりちゃんは、がっこうから かえると、すぐに あさがおを
みに いきました。

すると、あんなに きれいに さいていた あさがおが、
しおれて ちいさく しぼんで いました。

「ああ、あさがおが しぼんだ。」

まりちゃんは、かなしくなって おばあちゃんを よびました。

おばあちゃんは、

「だいじょうぶ。しんぱい ないよ。はなは、すぐに しぼんで しまうのよ。」
と、やさしく おしえて くれました。

「でもね、さいた あとには、やがて あたらしい いのちが うまれるの。そして、
つぎから つぎに はなを さかせて たくさんの たねの あかちゃんが
できるの。そうして いのちは つながって いくのよ。」

まりちゃんは、じいっと だまって きいて いました。

そして、まりちゃんは もういちど おばあちゃんの
はなしを おもいだし、こころの なかで

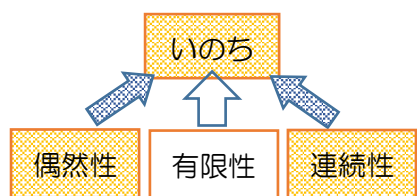
「いのちは つながって いくんだな。」

と、つぶやきました。



指導ガイド

『いのち』へのアプローチ



気づく

・「あさがお」にも『いのち』があり、大切に育てられる中で、その『いのち』がつながっていくことに気づく。

考える

・自分の『いのち』も、他の『いのち』も、誰かの『いのち』とつながっているということを考える。

行動する

・『いのち』のつながりに感謝しながら、生活ができるようにする。

展開例 【1時間扱い】

□授業の展開 ○問い	○指導上の留意点 ・予想される児童の反応
1 自分が育てている植物等を見て、育てていた時の気持ちを想起する。 ①みんなは植物を育てているとき、どんなことを思っていましたか。 2 教材「まりちゃんと あさがお」を読んで、次のことについて話し合う。 ②初めてあさがおが咲いたとき、まりちゃんはどんな気持ちだったと思いますか。 ③しぼんだあさがおを見て、まりちゃんはどんな気持ちだったと思いますか。 ④おばあちゃんの「いのちはつながっていくのよ」の言葉を思い出しながら、まりちゃんはどんなことを考えていたと思いますか。 3 『いのち』のつながりについて感じたことを振り返り、つながりに感謝して生活できるようにする。 ⑤「『いのち』はつながっているな！」と気づいたり、思ったりしたことはありますか。 ⑥つながりって素晴らしいですね。	○大変だった思い出や、感動したエピソードなども交えて思い出することができるようにする。 ・花が咲くのが楽しみで、毎日やさしく話しかけていました。 ・水やりは大変だったけど、どんどん大きくなってねと思っていました。 ○あさがおが咲いたときの喜びと、しぼんでしまった時の悲しさを確認しながら、種ができることで『いのち』のつながりがしっかり意識できるようにする。 ・きれいに咲いてよかった。 ・水やりをがんばってよかった。 ・もっといっぱい咲いたらいいな。 ・やっときれいに咲いたのに、どうしてしぼんだのかな？ ・こんなに早くしぼんでしまって悲しいなあ。 ポイント ・花が枯れるのはさみしいけれど、たくさんの種の赤ちゃんができるんだなあ。 ・新しい種ができて、それは「『いのち』はつながっていく」ということなんだなあ。 ○『いのち』のつながりの視点で、自分自身を振り返りながら、自分の『いのち』もつながっているを感じ、感謝の気持ちが生まれるよう展開する。 ・弟はお母さんのおなかの中で動いていた。つながって生まれてきた大切な『いのち』だと思った。 ・お父さんやお母さんなどが育ててくれて、大きくなれた。 ・ぼくも、お父さんやお母さん、いろいろな人とつながっている。だから『いのち』を大切にする。

関連する場面や資料

○他教科と関連させることで『いのち』の捉えを深めていく。

- ・国語科…「書く活動」を取り入れて、十分に考えさせる場面も意図的につくっていく。
- ・生活科…あさがおの成長の気づきから、自分自身の成長の気づきへと、質的に高まることも大切にする。

いのち
命

幼稚園	小学校			中学校	高等学校
	低学年	中学年	高学年		
キーワード	いのち 人の命の長さ 電池のじゅみょう いんないがっきゅう 院内学級				



《由貴奈さんがかいた詩と絵(長野県立こども病院提供)》

宮越由貴奈（みやこしゆきな）さんは活発で明るい女の子でした。

5才のある日、とつぜん足がいたくなり、たいへんな病気にかかっていることがわかりました。家族とはなれて病院に入院することが多くなり、生活も大きくかわってしまいました。

病院では、毎日、いたい治療やにがい薬をがまんし、不安でこわい思いの中、何回も手術にのぞみました。病院には由貴奈さんのような子が他にも入院していました。

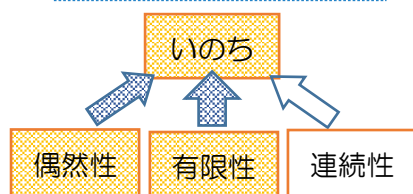
この詩は、由貴奈さんが病院の中にある教育しせつ(院内学級)の授業で感じたことを書いた詩です。

由貴奈さんは、5年半におよぶ病気との戦いの末、この詩を書いた4カ月後の平成10（1998）年6月28日、11才でこの世を去りました。

由貴奈さんの「命の電池」はしずかに切れました。

指導ガイド

『いのち』へのアプローチ



気づく

- ・生きていることは当たり前のことではなく、生きたくても生きられない『いのち』があることに気づく。

考える

- ・『いのち』を大切にすることはどういうことか考え、自分の生き方と照らし合わせてみる。

行動する

- ・自分に与えられた『いのち』を大切にするため、自分らしく生きていこうとする。

展開例 【1時間扱い】

□授業の展開 ○問い	○指導上の留意点 ・予想される児童の反応
① 命について自分の考えを発表する。 ① 「自分の命を大切にする」とは、どううことでしょうか。 ② 教材「命」を読み、次の点について考える。 ② 院内学級で過ごしている時、由貴奈さんはどんなことを考えていたでしょうか。  ポイント ③ 「私は命が疲れたと言うまでせいっぱい生きよう」という言葉には由貴奈さんのどんな思いが込められているのでしょうか。 ④ 「命を大切にする」とは、どういうことでしょうか。 ③ これからの生き方について自分らしく生きていこうとする。 ⑤ これから自分はどのように生きていきたいと思いますか。	○ 「危険なことをしない」「健康に気をつける」など、「行為」に目を向けた意見が多いと想定されるが、④での考えの変容と対比するために、この時点で児童が知識としてもっていることを確認する。 ○ 由貴奈さんの境遇や毎日の辛い治療から由貴奈さんが感じていたこと等、多面的に考えられるようにする。 ・なぜ、自分がこんな病気になったのだろう…。 ・元気な子がうらやましい。 ・何で命を無駄にするのだろう。 ・元気になったらあんなこと、こんなことがしたいな。 ○ ②で考えた由貴奈さんの思いや考えをもとに、この言葉に込められた由貴奈さんの決意、覚悟など様々な思いを多面的に考えられるようにする。 ・今日できることは、今日やるようにして、時間を大切にしたい。 ○ 命を大切にする「行為」だけではなく、その「心」に光を当てる。 ・命を大切にすることは、自分の人生を大切にし、今を精一杯生きること。 ○ ①からの考えの変容をわかりやすく対比させるなど、構造的な板書を工夫することも考えられる。 ○ 自分らしくとは何かを、自分自身のこと、他の人に対することなど、様々な視点から意見を交流する。自身の考えを広げ、行動につながる視点で深められるよう展開する。 ・今の自分にできることを、一生懸命にやる。

関連する場面や資料

- 体験活動と関連した実践…「福祉体験活動」「自然体験活動」などの実践活動に継続して取り組む。
- ゲストティーチャーを活用した実践…「骨髄バンク」「命の誕生」「死に直面した時の心情」など関連する様々な大人と継続して関わっていく。

「かわいそう」
「しかたがない」
「あたりまえ」

幼稚園	小学校			中学校	高等学校
	低学年	中学年	高学年		
キーワード	人と生き物とのかかわり 食べるということ				

【ワーク1】 旅行先でお昼ごはんを食べることになりました。メニューを見て、肉料理を食べることに決めました。何を食べるのかを選んでみると、お店の奥に「ぶたの丸焼き」を見つけました。

Aさんは「かわいそうだからお肉は食べたくない」と言いました。

Bさんは「おなかがすいているからしかたがないよ」と言いました。

Cさんは「食べ物だもの、あたりまえだよ」と言いました。

あなただったらなんと言いますか。その理由も書きましょう。

【ワーク2】 結局、みんなで肉料理を食べることにしました。とてもおいしかったので「ごちそうさま」と言いました。食べ終わってしばらくすると、お店の人が来てこう言いました。

「今日のお肉はどうでしたか。ぶたを育てる人やおいしいお肉をつくる人たちが一生懸命仕事をしているので、わたしもおいしく食べていただきたいと思って心を込めて料理を作っています。」3人はもう一度「ごちそうさま」と言ってお店をでました。

3人がもう一度「ごちそうさま」と言った気持ちを考えてみましょう。

【ワーク3】 人と他の生き物とのかかわりを考えてみましょう。

ア 犬やねこなどをペットとしてかわいがる人がいます。

イ 食べるために魚や貝をとる人や料理をする人がいます。

ウ 食べるために牛やぶたやにわとりなどの肉から製品を作る人がいます。

エ 人間に危害をくわえるおそれのある生き物を駆除する人がいます。

オ 育てている植物を食べてしまう虫を駆除する人がいます。

カ 貴重な動植物を保護している人がいます。

キ 飼っている生き物に生きた生き物(エサ)をあたえて飼育する人がいます。

ク 闘牛や競馬のように、闘わせたり、競わせたりする人がいます。

ケ 飼えなくなった動物や捨てられていた動物を処分する人がいます。

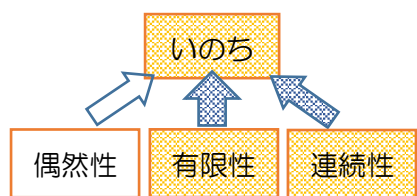
コ 洋服や楽器、財布やベルトなど動物の革を使って作る人や、使う人がいます。

サ 病気を治すための薬の効果を調べるために、動物を実験に使う人がいます。

あなたは、人が生きていくことと他の生き物とのかかわりをどう考えますか。

指導ガイド

『いのち』へのアプローチ



気づく

- ・人間は他の人とつながったり、たくさんの生き物とかがわったりして生きていることに気づく。

考える

- ・自分と多くの生き物とのかかわりやつながりを考える。

行動する

- ・自分と他の生き物や環境とのつながりを大切にし、自分の生き方に結び付けていく。

展開例 【1時間扱い】

☐ 授業の展開 ☒ 問い	☒ 指導上の留意点 ・予想される児童の反応
① 人間と生き物のかかわりについて考える。 ① みなさんは人間以外の生き物とどのようなかかわりがありますか。 ② 教材「かわいそう」「しかたがない」「あたりまえ」を読み、次の点について考える。 ② ワーク1のAさん、Bさん、Cさんの考え方について自分と比べてみましょう。 ③ ワーク2の、Aさん、Bさん、Cさんはどんな気持ちで「ごちそうさま」と言ったのでしょうか。 ポイント  ④ ワーク3の例からいくつかを選び、他の生き物とのかかわりから人はどのように生きているのかを考えましょう。 ③ 人間と生き物とのかかわり方について考えをまとめ、自分の生き方に結び付けていく。	○日頃の何気ない生活を振り返り、他の生き物と人間のかかわりに関心がもてるようにする。 ・ペットを飼っている。・食べている。・駆除している。 ○生き物を食べる場面から、人間の行動や意識の多様さに気づくよう課題提示する。 ・丸焼きは生きていた時の姿が想像できるので、かわいそうに感じる。 ・Bさんの「しかたがない」とCさんの「あたりまえ」はどちらも生きていくため。 ○子どもの視線を働く人や仕事にも向くように展開する。 (キャリア教育や職業観の育成にもつながっている。) ・料理を作ってくれた人へのありがとうの気持ち。 ・肉の加工者、販売にかかわった人への感謝の気持ち。 ○人間が生き物を大切にすることと生きていくために食べることは矛盾することではなく、自然の営みであることを確認する。 ・人間は生きていくために生き物を食べている。 ○自分の『いのち』は多くの生き物とかがわっていることをいろいろな視点から学べるようにする。 人間は安心して豊かに暮らすために、生物を大切に育てています。 人間は健康で安全に暮らすために、生物のいのちを絶ちます。 人間は生物を仕事に使います。 人間は闘牛や競馬などのように生物を闘わせたり競争させたりします。 人間は生物のいのちを絶ち、食べたり、生活に必要なものを作り出したりします。

関連する場面や資料

- 学校では理科、社会科、総合的な学習の時間等、家庭では調理や食事の時間等。
- 指導計画は、飼育・栽培活動や観察・調べ学習などを取り入れることにより、複数時間で扱うことも考えられる。
 - ・牛など動物を選んだ場合は、牛乳、牛肉に関連する内容を取り上げるなどの工夫もできる。

命てんでんこ

幼稚園	小学校			中学校	高等学校
	低学年	中学年	高学年		
キーワード	東日本大震災 しんがひ 災害 さいがい 防災 ぼうさい			てんでんこ	

僕は思う。あの日の体験をこれから生きていく人々に伝えたい。

3月11日、14時46分、大きな地震が東日本を襲った。僕たちは体育館で卒業式の練習をしていた。先生の声で校庭に出た。校庭はまるでゼリーのように波打ち、泣き出す人もいた。みんなで励まし合いながら恐怖に耐えていた。そして、「逃げろ。」という声が出て、何かなんだかわからないまま、僕たちは学校の裏山に登った。津波はものすごい速さで町を飲み込み、さっきまでの町並を一瞬でがれきに変えてしまった。声も何も出なかった。ただこわくて体が震えた。津波を目の前で見て、何もできない僕たちはおろおろするだけだった。

その日は、全校生徒が田老総合事務所で一夜を明かした。消防団の父さんに、夜23時頃に会えてとても安心したが、寝るにも寝られない夜だった。夜が明け、外を見ると、がれきの上に雪が積もっていた。昔から津波の次の日は雪が降るという言い伝えがあるらしい。言い伝えのとおりすぎて驚いた。そして、がれきの上の雪は僕たちをますます悲しくさせた。

明るくなるにつれ、家の人が出てきて、みんな家へと帰って行った。家の人があるたびに、涙を流す仲間の姿を見送った。

3日目、千徳の祖父母の家に行った。電気も水もガスも復旧していて、その違いに驚いた。でも僕はなんだか落ち着かず、じっとしていられなかった。「父さんと一緒に消防団の仕事を手伝いたい。」と言った。生きている人がいるかもしれないと、一生懸命にがれきの中を父さんと歩いた。

僕はがれきの中を歩きながら思ったことが二つある。一つは「命てんでんこ」という言葉の深い意味。命より大切なものはありません。どんなことがあっても逃げることを考えてください。命があればどうにでもなります。未来に向かって歩き出せます。

もう一つは、負けたくないと思ったことです。田老は今まで何度も津波の被害にあい、それを乗り越えてきた町です。校歌の3番には田老一中生の進むべき道が示してあります。

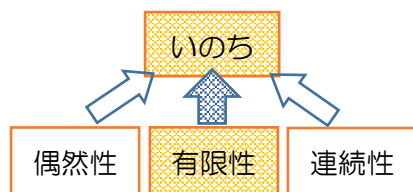
防浪堤を仰ぎみよ
試練の津波幾たびぞ
乗り越えたてしわが郷土
父祖の偉業や跡つがん

僕はあの日のことをたくさんの人に伝えたい。命を大切にしようと伝えたい。そして、決してあきらめず僕らの未来を作りたい。

(岩手県宮古市立田老第一中学校二年生の作文)
《私たちの道徳 小学校5・6年(文部科学省)》

指導ガイド

『いのち』へのアプローチ



気づく

・命は災害によって突然奪われることもあることに気づく。

考える

・災害による被害や命の大切さ等を伝え継いでいくことの意味について考える。

行動する

・災害から自他の命を守るためにできることを考え、実践しようとする。

展開例 【1時間扱い ※ 3】について取り組む場合は2時間扱い】

□授業の展開 ○問い	○指導上の留意点 ・予想される児童の反応
① 東日本大震災について知る。 ② 教材「命てんでんこ」*2を読み、次の点について考える。 ①筆者は、なぜあの日の体験を伝えたいのだろうか。 ②筆者は「命てんでんこ」という言葉の深い意味をどのように考えたのだろうか。 ③「決してあきらめずに僕らの未来をつくりたい」には、筆者のどんな思いや願いがあるのだろうか。 ④「未来をつくる」ために、自分たちに何ができるのかについて考え、実践しようとする。 ④災害から命を守るためには、どうしたらよいだろうか。	○様々な事情により震災について振り返ることが困難な児童がいる場合には、無理に回想しないよう声をかける。 *2 「てんでんこ」とは三陸地方の言い伝え。「てんでんばらばらに」の方言。津波の時は、自分の命を守るために一人でも高台に逃げろという意味。 ○「なぜ伝えたいのか」について考える中で、「命てんでんこ」の言葉に着目し、深く考えられるよう課題提示する。 ・同じ悲しい思いをする人がいないよう、「命てんでんこ」の意味の大切さを多くの人に伝えたいのではないかな。 ○場合によっては資料等を配付し、「命てんでんこ」の意味について押さえた上で、さらに考えを深められるようにする。 ・命はお金では買えない。だから、どんなことがあってもまずは逃げろという意味ではないかな。 ○東日本大震災の経験だけでなく、日頃の災害報道から思うことなどと重ねながら、考えを広げられるよう展開する。 ・災害に屈しない社会をつくってほしいという思い。 ・人々の命が守られる未来であってほしいという願い。 ○災害時の救助活動等だけでなく、日常生活の中で自分たちにできることなどにも考えを広げられるよう、発問する。 (参観日等で家庭や地域の人に授業を公開し、学校と地域が防災について考える場面を設定する) ・東日本大震災の経験を忘れず、いろいろな人に伝えていく。 ・日ごろの避難訓練などにも真剣に取り組む。

関連する場面や資料

○神奈川県教育委員会「小・中学校における政治的教養を育む教育」指導資料（平成29年3月）より【県HP参照】

- ・社会科では、「自然災害から人々を守る活動」（4年生）や「我が国の国土の自然環境」（5年生）の学習、総合的な学習の時間では、「防災」をテーマとした学習の中でこの教材の活用が考えられる。
- ・健康安全、体育的行事、学級活動の「避難訓練」、地域における「避難所運営会議」「地域防災訓練」等でこの教材を紹介することも考えられる。

その思いを 受けついで

幼稚園	小学校			中学校	高等学校
	低学年	中学年	高学年		
キーワード	身近な人の病気			3か月の命	手紙

ぼくには、小さいころからぼくをうんとかわいがってくれたじいちゃんがいる。でも、そのじいちゃんが、あと3か月で死ぬかもしれないなんて…。

今日、学校から帰って来ると、お母さんが深刻な顔をして言った。

「話があるの…。」

ぼくは、この前のテストのことでしかられるのかと、ちょっと構えた。お母さんの口調は静かだった。

「ねえ、大地…。この前じいちゃんが入院したとき、お母さんは、長生きするようにいろいろとみてもらっているのよって言ったわね。でもね、本当は…。じいちゃんは重い病気であと3か月の命と言われて…。大地にはずっと言わないでおこうと思っていたんだけど、やっぱりきちんと話して、じいちゃんとの残された時間を大事にしてほしいと思ったの。」

「えっ、あと3か月の命ってどういうこと？」

ぼくは頭が混乱して涙もなくトイレに閉じこもり、こみ上げる悲しさに声を上げて泣いた。

次の日から、ぼくは、放課後にみんなと遊ぶのをやめて、学校から帰るとお母さんが用意したぼくの弁当を持って、自転車で病院にお見舞いに行った。

「じいちゃん。一緒に食べよう。」

「うん。大ちゃんと食べるとご飯は特別においしいからなあ。」

「いっぱい食べて早く元気になってよ。」

「うん。また一緒に温泉に行こう。」

ぼくとじいちゃんは、学校の話や小さいころの思い出話をしながら楽しく夕食を食べた。自分で言うのも何だけど、ぼくは感心にも毎日欠かさず病院に行った。じいちゃんは、ぼくが来るのを楽しみにしていて、病院の売店でぼくの好きなお菓子を買っては、いつも枕元に置いてくれていた。

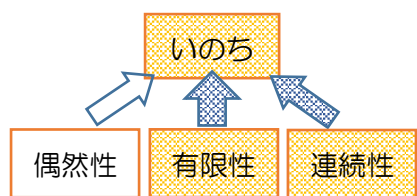
でも、日に日にじいちゃんはやせていった。

[一部抜粋 P17～18に全文掲載]

《 私たちの道徳 小学校5・6年(文部科学省) 》

指導ガイド

『いのち』へのアプローチ



気づく

- ・命には限りがあるということ。
- ・身近な人と深くかかわっていること。

考える

- ・人それぞれの生き方について考える。
- ・身近な人とのかかわり方を考える。

行動する

- ・受け継いだ『いのち』であることを意識し、今を懸命に生きようとする。

展開例 【1時間扱い】

□授業の展開 ○問い	○指導上の留意点 ・予想される児童の反応
1 『いのち』の長さについて考える。 ①植物の命はどのくらいの長さですか。動物はどうですか。人間はどうですか。 2 教材「その思いを受けついで」を読んで、次の点について考える。 ②じいちゃんは大地のことをどう思っていたのでしょうか。 ③大地はじいちゃんと接する中で、何を考えていたのでしょうか。 3 登場人物の『いのち』から、自分の『いのち』や身近な人の『いのち』へ意識を向ける。 ④生きられる時間が決まっている中で、みんなは今を生きています。今をどう生きることが大切ですか。 ポイント	○育てている植物、飼っている動物から人間へと結び付け、自分の『いのち』にも他と同じように限りがあることを理解できるよう発問する。 ○3か月という限られた時間の中で、教材の二人が何を思い、どう行動したのかを中心に発問する。 ・大地が来てくれるのがうれしかった。 ・大地へありがとうの気持ちと見守り続けるよという思いを伝えたかった。 →最後の一文から、大地がじいちゃんの『いのち』を受け継いだことを押さえる。 ・じいちゃんとの時間を大切にしていた。 ・じいちゃんにいい思い出をもってほしかった。 ○自分の生き方について思いを深め、今を大事にするという視点を持てるよう発問する。 ・受けついで『いのち』を大切にする。 ・一生懸命、勉強や習い事をする。 ○自分のことから周囲へと意識を広げられるよう展開する。 ・家族や友達のためにできることをする。 ・ありがとうの気持ちをきちんと伝える。

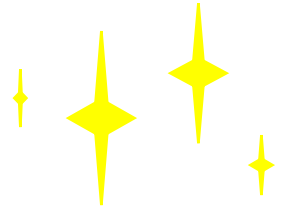
関連する場面や資料

○学校での関連場面

- ・地域のデイサービスなど、高齢者とのふれあい。（総合的な学習の時間）
- ・学級目標をつくる際、自分のできに意識が向くようにする。「特別活動（学級活動）」

○家庭や地域では

- ・家族や地域の人々とのかかわりと自分の役割について。（生活科・家庭科）



ぼくには、小さいころからぼくをうんとかわいがってくれたじいちゃんがいる。でも、そのじいちゃんが、あと3か月で死ぬかもしれないなんて…。

今日、学校から帰って来ると、お母さんが深刻な顔をして言った。

「話があるの…。」

ぼくは、この前のテストのことでしかられるのかと、ちょっと構えた。お母さんの口調は静かだった。

「ねえ、大地…。この前じいちゃんが入院したとき、お母さんは、長生きするようにいろいろとみてもらっているのよって言ったわね。でもね、本当は…。じいちゃんは重い病気であと3か月の命と言われて…。大地にはずっと言わないでおこうと思っていたんだけど、やっぱりきちんと話して、じいちゃんとの残された時間を大事にしてほしいと思ったの。」

「えっ、あと3か月の命ってどういうこと？」

ぼくは頭が混乱して訳もなくトイレに閉じこもり、こみ上げる悲しさに声を上げて泣いた。目を真っ赤にはらしてやっと出てきたぼくを見て、お母さんが言った。

「お母さんだってずうっと、もっともっとじいちゃんと一緒にいたいわ。でも、命には、いつか終わりが来るのよ。」

「じいちゃんは、病気のこと知ってるの？」

「ううん。お母さんには言えない。悲しお顔を見るのはつらいし、それより一日でも多くじいちゃんとの限られた時間を大切に楽しく過ごしたいわ。だから、このままそっとしておこうと思うの。」

「うん…。」

次の日から、ぼくは、放課後にみんなと遊ぶのをやめて、学校から帰るとお母さんが用意したぼくの弁当を持って、自転車で病院にお見舞いに行った。

「じいちゃん。一緒に食べよう。」

「うん。大ちゃんと食べるとご飯は特別においしいからなあ。」

「いっぱい食べて早く元気になってよ。」

「うん。また一緒に温泉に行こう。」

ぼくとじいちゃんは、学校の話や小さいころの思い出話をしながら楽しく夕食を食べた。自分で言うのも何だけど、ぼくは感心にも毎日欠かさず病院に行った。じいちゃんは、ぼくが来るのを楽しみにしていて、病院の売店でぼくの好きなお菓子を買っては、いつも枕元に置いてくれていた。

でも、日に日にじいちゃんはやせていった。1か月もたつと痛みのために強い薬を使うようになって、意識がもうろうとするときがあった。そんなときは、食事どころか話もできなくて、ぼくは静かにベッドのそばのいすにすわって、目を閉じているじいちゃんの顔を見て話した。

「じいちゃん、元気出してね。注射は痛いけど良くなるためだよ。頑張らないと駄目だよ。早く良くなって一緒に温泉に行こうね。」

そんな日の帰り道は、うんとペダルが重かった。もう、このままじいちゃんと話せなくなるのかと思うと、悲しくて力いっぱい自転車をこいだ。

お母さんに言われてから約3か月がたった。じいちゃんの食事は点滴に代わった。もう二人で一緒に夕飯を食べることはできなくなった。でも、ぼくは（今日は、話せるかな。）と、小さな期待を胸に大好きなじいちゃんに毎日会いに行った。

そんなある日、学校から帰るとお母さんがいなかった。玄関に紙がはってあった。『お帰り。病院にいます。』言い知れぬ不安がぼくをおそった。ぼくは、無我夢中で家を飛び出した。

じいちゃんは酸素マスクを付けられて、ピッ、ピッという機械の音だけが病室にひびいていた。瞬時に、ぼくはいろいろなことを察した。

ぼくは、目を閉じて静かに横たわっているじいちゃんの手をにぎった。小さいころから何千回もつないでもらったじいちゃんの手だった。「ハア、ハア。」静かな病室には、じいちゃんの息づかいだけがかった。ぼくはじいちゃんの耳元で言った。

「じいちゃん。きっと元気になるよ。もう少したったらきっと良くなるよ。そしたら、じいちゃんの大好きな温泉にまた一緒に行こうね。ぼくが連れて行ってあげるよ。だから、じいちゃん。元気出してよ。頑張るんだよ。」

そのときだった。じいちゃんは無言のままで、このぼくの手を弱いながらもにぎり返してくれた。その夜おそく、じいちゃんは、ぼくと手をつないだまま天国に旅立った。ぼくは、どうしようもないくらい悲しくて、じいちゃんの布団に顔をうずめて声を上げていっぱい泣いた。

しばらくたって、看護師さんが、じいちゃんの酸素マスクを外そうとちょっと頭を持ち上げてまくらを外したときだった。

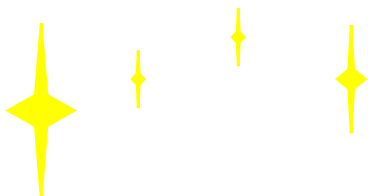
「あらっ…。」

じいちゃんのまくらの下にあったのは、しわくちゃののしぶくろだった。
「大ちゃんへ。お誕生日おめでとう。いつもお見舞いに来てくれてありがとう。これからもずっと大ちゃんのことを見守っているよ。」
ふるえて力のないじいちゃんの手だった。

ぼくの誕生日は、1か月も先だった。

「じいちゃん…。」

じいちゃんの温かな、そして強い思いがぎゅっとぼくの胸いっぱいにおし寄せた。



《私たちの道徳 小学校5・6年（文部科学省）》

耳澄まし 静かな野球

幼稚園	小学校			中学校	高等学校
	低学年	中学年	高学年		
キーワード	グラウンドソフトボール 仲間の役に立つ			ルールの工夫	

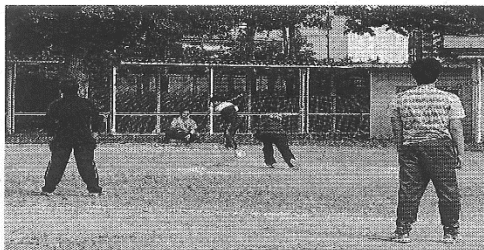
教室に行こう

⑧ 県立平塚盲学校

「パン、パン、パン」
捕手のミットを打つ音が、県立平塚盲学校のグラウンドに響き、プレーが始まる。
全盲の打者にとって投球が始まる合図となり、投手はボールを転がす方向の頼りとする、重要な情報だ。
晴れの日が続いた2014年5月末、地面は乾き、投手の投げたハンドボールが、音を立てて地面を走る。
「シュ、シュ、シュ」
球速は時速約45キロ。スピードの緩急や変化球を使って打者のタイミングを外す。打者は音を聞き分けて打つ。
詰まった当たりが内野に転がると、打者は一塁ゴーチの手をたたく音に向かって走り、全盲の野手は打球の転がる音を判断してボールを追う。
「トン、トン、トン」
弾むボールの音に合わせて捕球体勢を整える。周りの人は、打球の方向など、情報を伝えてはいけない。

耳澄まし 静かな野球

耳を澄まし、ボールを打つ



「アウト」
全盲の野手が、動きのあるゴロを捕球した時点で、打者はアウトとなるルールだ。
「ナイスプレー！」
ここで、解き放たれたように、歓声が上がります。
視覚障害は、全盲や弱視、視野狭窄など見え方に違いがあります。
「いつもみんなに助けてもらいます。でもこの競技は、自分が活躍できる、仲間の役に立っているという実感が持てるのです。全盲の選手が顔を輝かせた。」

今年8月20、22日に本県で第29回全国盲学校野球（グラウンドソフトボール）大会が開催される。「静かな野球」をプレーする選手たちを、耳を澄まして応援したい。
（学び見守り隊）は県教育委員会の指導主事や先生らで構成

投手の投げたボールが地面を走る「シュ、シュ」



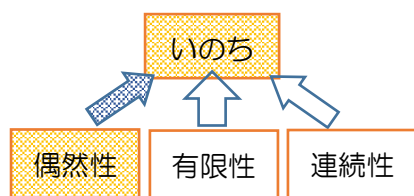
「トン、トン、トン」。音に合わせて捕球体勢に

●神奈川県教育委員会の元気な学校づくり通信『はにいい』にリンクします。
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f420082/>

《平成26年6月23日 神奈川新聞「教室に行こう」》

指導ガイド

『いのち』へのアプローチ



展開例 【1時間扱い】

気づく

- ・障がいがあるなしにかかわらず、人間はみんな、それぞれの人生を自分らしく生きていくものである、ということに気づく。
- ・人間が互いに思いやりやつながりをもって生きていくことの素晴らしさや大切さに気づく。

考える

- ・互いに思いやりやつながりをもつ共生社会の実現に向けて、自分にできることを考える。

行動する

- ・共生社会の実現に向けて、自分にできることから行動しようとする。

□授業の展開 ○問い	○指導上の留意点 ・予想される生徒の反応
1 障がいについて考える。 ①目が不自由な人の生活を考えてみよう。 2 教材「耳澄まし静かな野球」を読み、次の点について考える。 ②盲学校での体育の授業や部活動で注意することや必要なことは何だろうか。 ③部員たちはどのようなことから、「自分が活躍できる、仲間の役に立っている」という実感がもてる」と話したのだろうか。  ポイント 3 障がい者と共生する社会の実現に向けて、自分たちにもできることを考える。 ④スポーツを通して、自分たちにもできることはあるのだろうか。 ⑤「誰もがその人らしく生きていくこと」とは、どんなことなのだろうか。	○自分たちの日常生活から置き換えて考えられるようにする。 ・点字や点字ブロックがある、盲導犬や白杖を持って歩いている。 ・耳や手などの感覚だけでは不安に感じている。等 ○盲学校の特色を紹介する。 ○障がいがありながらも、ルールを工夫して競技をする生徒の思いについて話し合わせる。 ・スポーツをするのは誰かの助けがないとできないと思う。 ・合図や音などルールを工夫していると思う。 ・お互いに助け合うと、スポーツを楽しむことができる。 ・一緒にプレーする中で、自分のプレーに対して、喜んでくれたり、励ましてくれたりする声が聞こえてくることから実感したのだと思う。 ○かわいそうと思うことなく、ともに生きていくことに気づかせたい。 ・障がい者スポーツとして区別するのではなく、多様性を認め合って工夫したスポーツをすることは、自分達にできることだ。 ・スポーツを楽しむ気持ちは、みんな同じなので、「ともに生きる」ためには、「ともに楽しむ」ことを大事にしたい。 ・偏見や差別がない世の中で、自分を大切に、自信をもって生きていくこと。 ・誰からも大切にされること。

関連する場面や資料

- 総合的な学習の時間等の福祉体験学習と連続させる。
- 学校の特別活動等や地域の行事として、グランドソフトボールのルールで、疑似体験活動を設定する。
- 2020年東京パラリンピックについて、その意義を考える時間の設定を行う。
- 資料として『かながわ憲章「ともに生きる」』を紹介する。

知 命

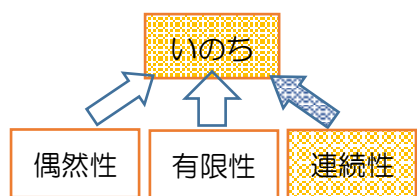
幼稚園	小学校			中学校	高等学校
	低学年	中学年	高学年		
キーワード	生きてるってこと			結節点	

著作権上、本文をホームページに掲載できません。

学級に配付されている冊子を御活用ください。

指導ガイド

『いのち』へのアプローチ



気づく

・人（自分）は多くの人に支えられ『いのち』を育まれているということに気づく。

考える

・たくさんの人とのかかわりの中で、どのように人と接していきたいか、自分の生き方について考える。

行動する

・人とかかわりに感謝し、他者に対して思いやりのある行動をとろうとする。

展開例 【1時間扱い】

□授業の展開 ○問い	○指導上の留意点 ・予想される生徒の反応
1 教材「知命」を読み、次の点について考える。 ①特に心に残ったところはどこですか。それはどうしてですか。 ②「沢山のやさしい手が添えられていたのだ」の『やさしい手』とはどんなことだろう。また、あなたの経験を想起しながら考えてみよう。 ③この詩を読んで、人と人との繋がりや人生について、あなたはどんなことを思い、考えましたか。 ポイント  2 人は誰かの支えや善意の中で生きていることを踏まえ、自分の行動や生き方について考える。 ④人とのつながりの中で、あなたはどのように行動していきたいと思いませんか。	○生徒の学習欲求や着目点をもとに、構成・展開していく。 ・「まきこまれ…」友達との関係で経験したことがあるから。 ・「やさしい手が添えられた…」振り返ると助けてもらったことがあるから。 ○家族間、友人間などの例を紹介し、自身の経験を見付けられるよう支援する。 [他者から自分へ] ・地道に取り組む役割を与えられ時、さりげなく仲間や家族が支援してくれたこと。 [自分から他者へ] ・友達同士の人間関係を調整したこと。 ○生徒一人ひとりの考えを尊重し、多様な考えを認め合う雰囲気をつくる。 ・自分が気づかないだけで、多くの人が自分のために手を差し伸べてくれているのかもしれない。 ・これから先も他人の優しさに気づかないこともあるかもしれないから、気づけるような人になりたい。 ・人と人は繋がっていて、不思議で奥が深いものと思った。 ・人は知らず知らずのうちに傷つけ合い、でも知らず知らずのうちに支え合って生きて行くものと思った。 ○生徒一人ひとりの心に自然に芽生える「人間の善意」に光を当て、各自の生き方について考えられるよう、授業を展開する。 ・お互い様という気持ちを大切にしたい ・他者の立場に立って、思いやりのある行動をしていきたい。 ・誰に対しても感謝の気持ちをもって生きていきたい。 ・知らないうちに傷つけてしまわないよう、優しく接したい。

関連する場面や資料

- 美術科や特別活動(学級活動)の時間に、この詩から連想する絵を描く時間を設定して、自分に向き合う環境を整える。
- 自分と家族、自分と身近な人等との関連を、ウェビングマップ等でイメージを描く時間を設定して、自分と他者と社会の関係を整理する。

一冊のノート

幼稚園	小学校			中学校	高等学校
	低学年	中学年	高学年		
キーワード	家族	物忘れ	もどかしさ	不安	

「お兄ちゃん、おばあちゃんのことだけど、この頃かなり物忘れが激しくなったと思わない。僕に、何度も同じことを聞くんだよ。」

「うん。今までのおばあちゃんとは別人のように見えるよ。いつも自分の眼鏡や財布を探しているし、自分が思い違いをしているのに、自分のせいではないと我を張るようになった。おばあちゃんのことでは、母さん、かなり参っているみたいだよ。」



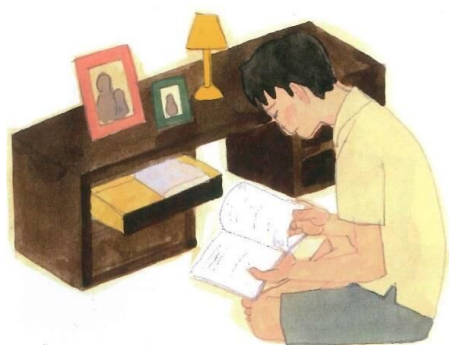
その晩、祖母が休んでから、僕は今日の出来事を父に話し、何とかならないかと訴えた。父は、僕と隆に、先日、祖母を病院に連れて行ったときのことを話し出した。

「お前たちが言うように、おばあちゃんの記憶は相当弱くなっている。しかし、お医者さんの話では、残念ながら現在の医学では治すことはできないんだそうだ。これからもっとひどくなっていくことも考えておかなければならないよ。おばあちゃんは、おばあちゃんなりに一生懸命やってくれているんだからみんなで温かく見守ってあげることが大切だと思うよ。今までのように、何でもおばあちゃんに任せっきりにしなくて、自分でできることぐらいは自分でするようにしないといけないね。」

「それは僕たちもよく分かっているよ。だけど…」

それから1週間余り過ぎたある日、探し物をしていて僕は引き出しの中の一冊の手あかに汚れたノートを見付けた。何だろうと開けてみると…

それは、祖母が少し震えた筆致で、日頃感じたことなどを日記風書きつづったものであった。見てはいけないと思いながら、つい引き込まれてしまった。最初のページは、物忘れが目立ち始めた2年ほど前の日付になっていた。そこには、自分でも記憶がどうにもならないもどかしさや、これから先どうなるのかという不安などが、切々と書き込まれていた。普段の活動的な祖母の姿からは想像できないものであった。しかし、そのような苦悩の中にも、家族と共に幸せな日々を過ごせることへの感謝の気持ちが行間にあふれていた。

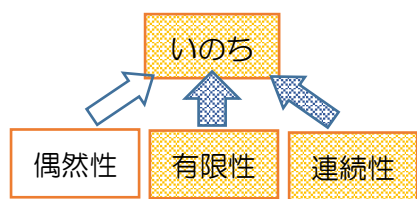


〔一部抜粋 神奈川県HPに全文掲載〕

《私たちの道徳 中学校（文部科学省）》

指導ガイド

『いのち』へのアプローチ



気づく

- ・自分にとっての家族の存在について、かけがえのなさに気づく。

考える

- ・家族への思いをめぐらせ、家族に対する接し方を考える。

行動する

- ・支え合い、励まし合える家族であるために、自分のできることをしようとする。

展開例 【1時間扱い】

□授業の展開 ○問い	○指導上の留意点 ・予想される生徒の反応
1 家族について、自分の考えを確認する。 ①あなたにとって、家族とはどんな存在ですか。 2 教材「一冊のノート」を読み、次の点について考える。 ②薬局の前で祖母と会ったとき「僕」がしら顔したのは、どんな気持ちからだろう。 ③父の話を聞いたとき、「僕」が何も言えなくなったのは、どうしてだろう。 👉 ポイント ④祖母の「ノート」を読んだとき、「僕」はどんなことを考えたのだろう。 ⑤「僕」が黙って祖母と草取りを始めたのは、どんな気持ちからだろう。 3 家族のありがたさについて考え、これからの生活を展望して、どのような行動をとっていけばよいか、考えをまとめる。	○日常の経験を中心に考えられるよう、発問する。 ・親とはけんかばかりしているが、いないと困るし寂しい。 ・*多様な家族形態に配慮した展開に注意すること。 ○主人公の祖母に対する言動やその気持ちに共感させる。 ・自分の祖母だと知られることが恥ずかしい気持ち。 ・自分が友達から嫌われてしまうかもしれないという不安な気持ち。 ○祖母を一方向的に責めていたが、頼りきっていたことに気づき、戸惑いの気持ちへ変容していることに気づかせたい。 ・愛情をもって世話をしてくれてきたことに気づいたから。 ・おばあちゃんの容態の変化を受け入れずに、責めてばかりいたことに気づいたから。 ○主人公の態度からどのような気持ちかを考える。 ・気持ちに気づかず申し訳ない。 ・家族のことを考えていてくれた。 ○主人公の心の変容を捉えられるようにする。 ・世話をしてくれて、ありがとうという感謝の気持ち。 ・自分ことは自分でするからという気持ち。 ○ともに支え合って生きていることに気づく。 ・家族に守られていた自分から、守っていく自分への自覚。 ・普段から、感謝の思いをもちながら生活することの大切さを忘れないでいたい。

関連する場面や資料

○学校での関連場面

- ・家庭科「家族と家庭生活」…家族を見つめ、今の自分と家族のかかわりに関心をもち、これからの家族関係をよりよくしようとする姿勢を育むことができる。

○HP等を活用して（P29のリンク集参照）

- ・かながわ認知症ポータルサイトにて、認知症全般について学ぶ。
- ・内閣府「家族の日」「家族の週間」「やっぱり家族っていいね。」にて、家族について考えを深める。

成田真由美さんと

競泳



幼稚園	小学校			中学校	高等学校
	低学年	中学年	高学年		
キーワード	パラリンピック スイミングスクール 仲間やコーチとの出会い 献花				

皆さんは、成田真由美さんを知っていますか。

「パラリンピック」という言葉や大会を日本国内に広めた人と言っても過言ではないでしょう。彼女はパラリンピック競泳で、1996年のアトランタ大会から2008年の北京大会まで4大会連続出場し、金15個、銀3個、銅2個、計20個のメダルを獲得、「水の女王」と呼ばれ、2016年のリオデジャネイロ大会では、個人3種目リレー2種目で、日本新記録を出しました。



成田真由美さんは神奈川県川崎市に生まれました。小学校時代はとても活発でしたが、中学生の時に脊髄炎を発症し、中学3年生の約1年間は寝たきりの生活で、院内学級で勉強をしました。

子どものころから運動は得意でしたが、水泳は苦手で、下半身が不自由になってからも、車いすバスケットボール、陸上、チェアスキーをし、水泳を始めたのは23歳の時でした。

水泳を始めてわずか1ヶ月後に出場した大会では、25Mと50M自由形で大会新記録を出し、優勝します。そんな、喜びもつかの間、その大会の帰路で追突事故に巻き込まれ、頸椎損傷となり、手に麻痺が残ってしまいました。

成田さんは、何度も何度もくじけそうになりましたが、応援してくれる仲間の支えにより、また泳ぎたい、やるからにはもう少し本格的に泳ぎたいと思うようになりました。そこで、通えるスイミングスクールを探しましたが、どこも車いすという理由で断られました。7件目でようやく受け入れてもらい、素晴らしいコーチに出会うことができました。コーチは成田さんを障がい者ではなく、一人の選手として厳しく指導しました。その結果、成田さんはアトランタパラリンピックに出場することができました。その後、シドニー、アテネ、北京と連続してパラリンピックに出場しました。

成田さんは、北京大会以降、選手を一度卒業して、全国の子どもたちに向けての講演活動に今まで以上に力を入れました。障がい者や障がい者スポーツ、パラリンピックについて知ることや、障がい者が必要としていることを知ることの大切さを語りかけます。「車椅子をいきなり後ろから押してくれる人がいます。気持ちはうれしいのですが、とてもびっくりします。「何か手伝いましょうか？」の一言をかけてみて下さい。その人にとって何が必要かを聞いてからの手助けが嬉しいです。」と言います。そして、「普段の生活の中で、手が使えない、足が悪い、目が見えない、耳が聞こえない人たちのことを想像してみてください」と締めくくります。



2016年に起きた県立障害者支援施設「津久井やまゆり園」の事件の直後、成田さんは献花に駆けつけました。「人間は年を取れば階段が上りにくかったり、時間がかかったりと誰もが障がい者です。命を差別しないでください」と語りました。

成田さんの視線の向こうには、誰もが命を大切にされ、健常者と障がい者が平等に尊重される共生社会があるのです。

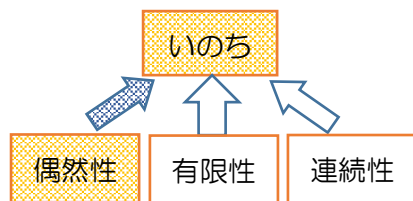


《「夢への前進」「あしたにトライ」の一部参考引用》



指導ガイド

『いのち』へのアプローチ



展開例 【1時間扱い】

気づく

- ・様々な困難を乗り越え、自分の『いのち』を精一杯輝かせて生きることの素晴らしさと人間の強さに気づく。

考える

- ・なぜ、困難なことがあっても、『いのち』を輝かせて生きることができているのかを考え、自分の人生を輝かせようと思う。

行動する

- ・共生社会の実現に向けて、様々な困難に直面しても、自分にできることを、前向きに取り組んでいこうとする。

□授業の展開 ○問い	○指導上の留意点 ・予想される生徒の反応
1 教材「成田真由美さんと競泳」を読んで、『いのち』を精一杯輝かせて生きている人の生き方の素晴らしさに気づく。 ①自分と似ているところや違うところを整理してみよう。 2 なぜ、困難なことがあっても、『いのち』を輝かせて生きることができているのかを考える。 ②なぜ成田さんは、様々な困難なことが重なっても、それを乗り越えようとすることができるのだろうか。 3 成田真由美さんが講演を通して伝えていることを受けて、共生社会の実現に向けて、自分にできることを具体的に想定する。  ポイント ③目の前に困っているような人がいたらどうしたらよいだろうか。 ④多様性を認め合い、人が平等に尊重される共生社会の実現に向けて自分がどう行動したらよいだろうか。	○教材の中の話ではなく、自分の事として捉えることができるよう、生徒の経験をもとに考えていく。 ・自分は部活中の怪我で大会に出られず落ち込み、その後、練習に身が入らなくなってしまったことがある。 ・成田さんは、いろいろなことがあったのに、前向きに挑戦し続けていて素晴らしい。 ○困難な場面の読み取りだけでなく、自分の事として捉えながら、その背景や心情を踏まえて考えるよう発問する。 ・病気に怪我が重なったが、自分を理解してくれる仲間やコーチに出会ったことが大きいのではないかな。 ・成田さんは、多くの人に支えられているが、成田さんの頑張る姿も、周りの人を支えているのではないかな。 ○共生社会の実現に向けて、自分にできることから取り組めるよう具体的な場面を想定できるようにする。 ・勇気をもって「何か手伝いましょうか」と声をかける。 ・日頃から「お互い様」という気持ちを大事にする。 ○高校生として、社会に参画していく意識をもち、誰もが暮らしやすい社会をつくっていくための、自分が取り組める大事な行動を認識できるようにする。 ・全ての『いのち』が大切であり、『いのち』は人と関わり合いながら輝かせることができることがわかったので、困っている人がいたら、声をかけたり傾聴したりと、ともに生きる世の中をつくっていきたい。

関連する場面や資料

- 学校での関連場面・保健体育→「スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴」
- ・家庭基礎→「共生社会と福祉」
- ・総合的な探究の時間→「福祉・健康」
- ・ホームルーム活動→「ボランティア活動の意義の理解と参画」から地域貢献活動
- かなチャン TV の活用 「対談『成田真由美さんと競泳』に寄せて」

ともに生きる社会 かながわ憲章

幼稚園	小学校			中学校	高等学校
	低学年	中学年	高学年		
キーワード ともに生きる社会の実現 津久井やまゆり園					

平成 28 年 7 月 26 日、障害者支援施設である県立「津久井やまゆり園」において、大変痛ましい事件が発生しました。

このような事件が二度と繰り返されないよう、私たちはこの悲しみを力に、断固とした決意をもって、ともに生きる社会の実現をめざし、ここに「ともに生きる社会かながわ憲章」を定めます。



翔子

この悲しみを力に、ともに生きる社会を実現します



題字「ともに生きる」
ダウン症の女流書家 金澤翔子
1985年東京都生まれ、5歳から書を始め、20歳で初個展。その後、鎌倉・建長寺、京都・建仁寺で毎年個展を開催するほか、奈良・東大寺など数多くの寺社で揮毫(きごう)および書の奉納を行う。NHK大河ドラマ「平清盛」のタイトル題字も手がけるなど多方面で活躍、日本福祉大学客員准教授。

ともに生きる社会
かながわ憲章

一 私たちは、**あなた**が**い**心をもつて、
すべての人のいのちを大切にします

一 私たちは、**誰もが**その人らしく
暮らすことのできる地域社会を実現します

一 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げる
あらゆる**壁**、いかなる**偏見**や**差別**も**排除**します

一 私たちは、この憲章の実現に向けて、
県民総ぐるみで取り組みます

平成 28 年 10 月 14 日 神奈川県

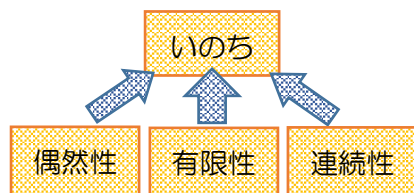


県のホームページで黒岩知事がメッセージを発信しています。
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f535096/>

《出典：神奈川県広報誌「県のたより」平成 28 年 12 月号》

指導ガイド

『いのち』へのアプローチ



気づく

- ・かながわ憲章のめざすものに気づく。

考える

- ・かながわ憲章の実現に向けて、課題とその解決方法を考える。

行動する

- ・かながわ憲章の実現に向けて、自分にできることを行動しようとする。

展開例 【1時間扱い】

□授業の展開 ○問い	○指導上の留意点 ・予想される生徒の反応
1 「県の広報誌」を見て、感じたことを出し合う。 ①この「県の広報誌」は、どのようなことを訴えているのだろうか。 2 教材「ともに生きる社会かながわ憲章」を読み、次の点について考える。 ②かながわ憲章の中で、自分が印象に残った文とその理由を考えよう。 ③かながわ憲章の実現に向けて、実際の社会生活の課題とその解決に必要なことを考えよう。 ポイント  3 かながわ憲章の実現に向けて 自分にできること を考える。 ④学んだこと、今後していきたいことをまとめよう。	○かながわ憲章が策定された背景についてふれる。 ・『いのち』を大切にすること、共生社会の実現、障がいのある人への偏見や差別をなくすことの三つをみんなで実現しようと訴えている。 ○「人権」や「共生社会」についてふれる。 ・「あたたかい…」これがあれば、いじめなど人間関係のトラブルも起こらないと思ったから。 ・「誰もが…」誰もがその人らしく、誰もが暮らしやすい社会にするために環境整備が重要だと思ったから。 ・「障がい者…」誰もが高齢になると様々な障がいがあるので、身近な問題だと思ったから。 ○具体的な体験をもとに考えるように促す。 ・困っているとき、友だちに助けてもらおうとあたたかい気持ちになる。気づかないふりをやめることが必要だと思う。 ・点字ブロックの上に自転車が停められていて、目の不自由な人が困っていたことがある。バリアフリーに対する私たち一人ひとりの意識の向上が必要だと思う。 ・自分が怪我をしたり病気をしたりして辛いときに、周りの人が助けてくれた。「困ったときはお互い様」を忘れないことが必要だと思う。等 ○自助、共助、公助について簡潔に説明する。 ・「ともに生きる社会」は、誰もが尊重されて支え合う社会だと思う。相手を尊重して接することができているかを、常に自分に問いかけていきたい。 ・物理的なバリアは物が解決してくれるけれど、意識上のバリアはそうはいかない。誰もがその人らしく暮らせるように、共生社会の実現に向けて、認識をより深めていきたい。

関連する場面や資料

○学校での関連場面

- ・現代社会（現代における人間の倫理）、家庭総合（共生社会における家庭や地域）、総合的な探究の時間（テーマ設定：共生社会、社会福祉等）等

○教材を深めるために

- ・神奈川県福祉作文コンクール（神奈川県社会福祉協議会）

○かなチャンTVの活用 「金澤 泰子氏の講演と翔子氏の席上揮毫」

いのちの授業 リンク集・文献

＜＜神奈川県「いのちの授業ハンドブック」HP＞＞

- ・ かながわ「いのちの授業」

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f417796/>

→ 「いのちの授業」ハンドブックダウンロード

HP：かながわ「いのちの授業」を開くと、このページに掲載してあるHPにつながります。



＜＜「いのちの授業」関連する資料等HP＞＞

神奈川県「いのちの授業」HP QRコード

- ・ 文部科学省 道徳教育

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/

- ・ 文部科学省 人権教育

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/jinken/index.htm

- ・ かなちゃんTV

『成田真由美さんと競泳』に寄せて <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ie2/ktv/sports.html>

「金澤泰子氏の講演と翔子氏の席上揮毫」 <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ie2/ktv/culture.html>

- ・ 「ともに生きる社会かながわ憲章」や共生社会実現に向けた取組み

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/m8u/cnt/f535463/index.html>

- ・ 「ともに生きる」をテーマとした写真の投稿や関連のイベントのお知らせ（共生推進本部室）

<https://x.com/tomoikitaro>

<https://www.instagram.com/tarotomoiki/>

- ・ 神奈川県教育委員会 「自己肯定感を高めるための支援プログラム」 H29. 5

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/seitosidou/jikokouteikan.html>

- ・ 神奈川県福祉作文コンクール(神奈川県社会福祉協議会)

https://knvc.jp/harmony/harmony_03/

- ・ 神奈川県立総合教育センター

〈小・中学校〉「道徳教育の充実」を目指した道徳科の授業づくり実践事例集 H29. 3

<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/kenkyu/seikabutsu/documents/28001dotoku.pdf>

高等学校における道徳教育の充実に向けて H23. 3

https://www.pref.kanagawa.jp/documents/28305/doutoku_bw.pdf

- ・ 神奈川県教育委員会 人権教育の紹介ページ

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t8d/hr_edu/top_page.html

- ・ かながわ認知症ポータルサイト

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/u6s/cnt/f6401/>

- ・ ふくしま道徳教育資料集

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/edu/gimukyoiku57.html>

＜＜参考文献＞＞

- ・ 神奈川県教育委員会 H20 作成 生きる『いのち』を大切にする心をはぐくむ教育 指導資料

学校・保護者・地域の皆様へ

*ハンドブックを活用されて、思い描いたイラストや感想など温かいお声をお寄せください。また関連して工夫された教材等の好事例を教えてください。HPに掲載して発信させていただきます。

*御家庭や地域で取組まれている「いのちの授業」や、子どもと『いのち』について語り合うなどした事例を紹介してください。一部HPに掲載して発信させていただきます。

*ハンドブックを活用して「いのちの授業」大賞作文募集に応募ください。応募方法及び応募用紙は、以下よりダウンロードできます。

かながわ「いのちの授業」

検索

ここからも
見られます



問い合わせ先→inochi4027@pref.kanagawa.jp

【「いのちの授業」ハンドブック作成検討会議】

鎌倉女子大学教育学部教育学科	教授	鈴木 樹	座長
杉並区立済美教育センター	指導教授	福田 鉄雄	副座長
横浜市教育委員会指導部人権教育・児童生徒課	主任指導主事	日暮 勤	
川崎市教育委員会学校教育部指導課	指導主事	吉澤 晋	
相模原市教育委員会学校教育部学校教育課	指導主事	中井 一臣	
横須賀市教育委員会学校教育部教育指導課	主査指導主事	北川 貴章	
神奈川県立総合教育センター教育事業部教育課題研究課	指導主事	栗田 泉	
神奈川県教育委員会湘南三浦教育事務所	指導主事	松田 寿雄	
神奈川県教育委員会県央教育事務所	指導主事	細井 美穂	
神奈川県教育委員会中教育事務所	指導主事	二戸 基明	
神奈川県教育委員会県西教育事務所	指導主事	秦 睦美	
神奈川県教育委員会総務室企画調整グループ	主幹	倉田 慎一	
神奈川県教育委員会総務室企画調整グループ	主査	若月 秀将	
神奈川県教育委員会総務室教育ビジョン・防災グループ	主任主事	田村 良平	
神奈川県教育委員会行政課	主幹兼指導主事	森本 美穂	
神奈川県教育委員会高校教育課	指導主事	槇 健志	
神奈川県教育委員会学校支援課	指導主事	青木 正行	
神奈川県教育委員会保健体育課	副主幹兼指導主事	橋本 晴子	
神奈川県教育委員会特別支援教育課	指導主事	加藤 久典	
神奈川県教育委員会生涯学習課	主査兼社会教育主事	鈴木 智久	
神奈川県教育委員会インクルーシブ教育推進課	指導主事	下原 修	

【事務局（神奈川県教育委員会子ども教育支援課）】

課長	宮村 進一	グループリーダー兼指導主事	藪 謙二
指導主事	山崎 幸子	指導主事	三浦 弘貴
指導主事	松尾 英和	指導主事	仲原 千鶴子
		指導主事	吉田 崇
		指導主事	渡邊 憲一



いのちの授業

「いのちの大切さ」や「他人への思いやり」を学ぼう、伝えよう

かながわ いのちの授業

検索



<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/cnt/f417796/>